

『Le Petit Prince』日本語版における翻訳間の類似性・差異性 ーグッドマンの記号論を用いた分析ー

村橋 杏紀

「Traduttore, traditore」（翻訳者は裏切り者だ）というイタリアのことわざがあるように、翻訳者が作品に与える影響は決して少なくないと言われている。そのため、同じ原作であっても、翻訳者が異なることで、読者が作品に対して抱く印象が変わる可能性がある。そこで、翻訳者が作品にもたらす作用が、異なる翻訳間においてどのような差異を引き起こすのかということに興味を持ち、考察を行った。

翻訳に関する研究では、翻訳文の差異から、翻訳時のコンテキストを論じるもの、言語の特徴について論じるもの、忠実な翻訳について論じられているものなどがある。しかし、複数の翻訳間にどのような類似性、差異性がみられるのかについて論じられているものはなかった。そこで本研究では、ネルソン・グッドマンが藝術の諸分野で提唱した作品の同一性に関する理論を用いて、翻訳作品の分析を行った。

本研究で対象とする翻訳作品は、『Le Petit Prince』の日本語版 27 作品である。『Le Petit Prince』は、日本では主に『星の王子さま』の題で親しまれており、多くの翻訳が出版されている。そのうち、原文が全て翻訳されており、比較可能なものを対象とした。

グッドマンは、文学や音楽を、その同一性が構文論的ないし意味論的に決定されることから、異書体を入れる藝術とした。異書体を入れる藝術において、ある作品の〈変奏〉として成立するための条件として、形式的条件と機能的条件が提唱されている。形式的条件とは、主題とある点で似ており、また別の点で対照的な特徴を持つことである。機能的条件とは、主題と共有、または対照をなす特徴を字義的ないし隠喩的に例示することで、主題を指示していることである。原作と翻訳との間では、形式的条件と機能的条件のどちらもが満たされているが、翻訳によって、条件の満たし方は異なる。そのため、形式的条件と機能的条件を分析し、それらを比較することで、翻訳間の類似性、差異性を考察した。

考察の結果、それぞれの条件によって、複数の観点から翻訳間の類似性、差異性を示すことが出来た。また、調査で明らかとなった、各観点での類似性および差異性と、各人が翻訳を読み比べた際に感じる、翻訳間の類似性と差異性を重ねることで、各々が作品の雰囲気を感じ取るものとして、重要視している観点を推測できると考える。しかし、一般的に翻訳を読む際に、どの観点がより差異性を感じさせるのかについては明らかにできなかったため、今後の課題とする。

(指導教員 横山 幹子)